
平和の思い出～前編

ブータローの相棒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平和の思い出〜前編

【Nコード】

N1814B

【作者名】

ブーローの相棒

【あらすじ】

御守りを見て和葉は、平次との鎖の絆について思い出す。*さまざまな鎖の絆エピソードの中で前編では、初めての鎖の絆についての思い出です。

（前書き）

これは初めての思い出についてです。

あれはガキの頃の話や。

あたしと平次は、屋根裏部屋でおっちゃんの手錠を見つけたんや。

あたしと平次は手錠でふざけて刑事の真似をして遊んでいたら、外れなくなってもうて大変やったで・・・

――あれからいろいろと苦勞して手錠は外したんや。

それから、あたしはその手錠の鎖のかけら御守りの中に入れて今も大切にとっとてる！

あたしは御守りを見るたび、幼かった過去を思い出す。

- - - 回想 - - -

屋根裏部屋に入って探検している。

「なあ・・・平次。」

「和葉・・・なんや」

「さっきから何探しとるん？」

「別に、たいしたもんじゃないで。

確かこの辺にあつたんや!」

平次はなんか探しておる。

「ーなんやろう?

「あつたで。これや!」

平次は手錠を差し出した。

「なんや・・・それ手錠やろ?

そないもんなんに使うの?」

「これか?

刑事の真似事をやるんや。

一度やってみたかつたんや。

親父はケチりよって手錠貸してくれへんからな...」

「じゃあ・・・平次を捕まえるで・・・」

和葉は平次から手錠を取り上げた。

そして平次の腕に手錠をつける。

「平次。逮捕・・・」

「あ、あほお前いきなりなにやるんや・・・
和葉の腕にも手錠をつけてやるで。仕返しや。」

和葉容疑者逮捕！」

次は平次が和葉の腕に手錠をつける。

「これで和葉も捕まってもうだな。」

「平次が先に捕まったんやで・・・
あと、手錠外してくれん？」

「ああ今外すわ。」

「・・・っておれも手錠外れへん・・・」

必死に外そうとしたんやけど

外れへんかった。

「ちよつと平次あんたまで

手錠外れへんの？

まったくあほや。」

和葉は呆れている。

平次と和葉2人とも手錠でつながってしまった。

引っ張っても鎖が伸びるだけ。

鎖がちぎれない。

「なあ・・・平次いなんとかならへんの？」

「なんとかはなるんやけどしばらくまっとなアカン。

大人に外してもらうしかないんや。

親父が帰ってくるまでの辛抱や。

まあおれは親父にしごかれけどな・・・」

和葉は、少し黙っていた。

ちよつとした時間は、一言もしゃべらんかった。

少し経ってから和葉が口を開いた。

「なあ・・・平次。」

「なんや!？」

「平次、トイレ行っでいい？」

「まあええよ・・・」

和葉は、トイレへ向かう。

その時に平次も引つ張られる。
自分のペースで歩く和葉に

平次はついていけなかった。

「和葉、引っ張るな！

痛いわ・・・」

トイレまで引きずられている平次。

「じゃあ平次はトイレの前でまっとなてえや。

絶対に後ろ向いたらアカンで。」

「あほ・・・誰も向かんわ！

覗きなんてせえへんわ。」

あたしと平次。

その時間お互いに

そっぽを向いていた。

でもあたしにとっては平次との

距離が近く感じたんや。

なぜなら平次は私の

すぐ近くにいるからや。

トイレに行っていたその時間は

おさえきれないほど

ドキドキしていた。

初めてこんな気持ちになった。

このドキドキ感。

これが最初の

平次との思い出。

あたしはトイレから出た。

手を洗っている。

平次は手を洗うのが遅い

――あたしに怒っている。

あたし達は、まだ手錠が外れへんまま。

あたし達の鎖の絆のエピソードはこんなもんやない。

――この出来事は、『鎖の絆』の最初の思い出である。

（後書き）

この話は後編もあります。

前編の続きとしてその後の鎖の絆エピソードを語ります。
まだ2人の手錠は外れていません。

後編があります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1814b/>

平和の思い出～前編

2010年10月28日02時41分発行